

TOEIC®テストを理解しよう

TOEICテストは客観的な英語力を測定するために米国のETS (Educational Testing Service) が開発した能力判定テスト。全国の大学や企業で英語力の指標として採用され、年間の受験者数は171万人を超える(2008年)。

実施方法には1年間に8回全国で実施される公開テストと、大学や企業内で独自に行うIPテスト(国体特別受験制度/学内ではカレッジTOEICと呼ばれる)がある。また英語を話す、書く能力を直接的に測定するTOEICスピーキングテスト/ライティングテスト(SWテスト)もある。

▶ **TOEICテスト公式サイト** <http://www.toeic.or.jp/>

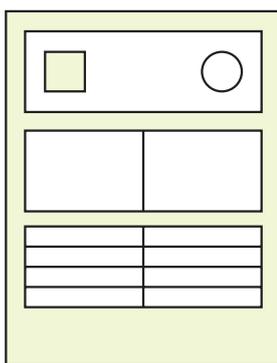
<h2>5 TOEIC®テストを理解するための5つのポイント</h2>	<h3>1 指示、問題文・設問などがすべて英語</h3> <p>指示を理解する段階で余計な神経を使わずにすむように、模試問題で各パートの問題形式をあらかじめ頭に入れておこう。</p>	<h3>2 リスニングセクションの配分が全体の50%</h3> <p>今まで受けてきた英語のテストでこれまでリスニングの割合が多いものはほとんどなかったはず。音を制するものがスコアを上げる。</p>
	<h3>3 リスニング100問+リーディング100問の合計200問</h3> <p>これだけの数をこなすには、効率のいい問題攻略スキルと、時間内に多数の問題に解答する時間管理のスキルが必要。</p>	<h3>4 キッチリ120分のロングラン</h3> <p>リスニングセクション45分の後、すぐ続いてリーディングセクション75分。相応の体力と集中力が必要だ。日々の鍛錬あるのみ!</p>

公開テストとIPテスト

年間数回(最大年8回)実施され、一般の受験者が自由に受ける公開試験は「SP」テスト。企業や大学などで特定の団体のみが受験するのは「IP」テスト、大学では「カレッジTOEIC」と呼ばれる。SPとIPでは問題や難易度が変わりはないが、大学院や企業などで特に「公開テスト」と指定してある場合はそのスコアが必須となるので注意が必要だ。

スコアレポートの見方

スコアレポートは対策を立てる上で参考となる情報が多く載っている。



① YOUR SCORE

目標スコアを考える時は必ずリスニングとリーディングそれぞれの点数を見てバランスを確認。

② ABILITIES MEASURED

スキル別の得手不得手を見ます(Part別ではない)。特に棒グラフの短い項目があれば、重点的に強化すべきポイントだ。

点数のイメージを頭に入れる

何点をめざせばいいのか?という学生からの質問には、特別な事情がなければ「3年生の秋までに600点」。単位認定、院試など各大学特有の必須スコアは大学側の資料をチェックして情報提供を。「誰がいつ何点必要か」を店頭で開示しましょう。

● 主な平均スコア

公開テスト平均スコア	581
新入社員の平均スコア(IP)	461
大学1年生の平均スコア(IP)	412
大学4年生の平均スコア(IP)	506

● 職種別平均スコアベスト5(※IP)

1位 海外・国際部門	683
2位 法務部門	609
3位 財務部門	582
4位 広報部門	579
5位 マーケティング部門	575

● 企業の業種別平均スコアベスト5(※IP)

1位 商社	610
2位 マスコミ	592
3位 不動産	560
4位 証券・保険	553
5位 金融	542

※参考資料：(財)国際ビジネスコミュニケーション協会
「TOEICテスト 2009 DATA & ANALYSIS」

各パートの形式

問題形式と設問の数、1問あたりの回答時間の目安は以下のとおり。

★印はパート別の難易度。試験日までの残り期間を考え、重点パートの優先順位を決めよう。初級・中級ならまずP2とP5対策を。

● リスニングセクション / 100問・45分

Part I	写真描写問題・10問	1問平均5秒	★~★★
Part II	応答問題・30問	1問平均5秒	★
Part III	会話問題・30問	各設問につき8秒	★★
Part IV	説明文問題・30問	各設問につき8秒	★★★

● リーディングセクション / 100問・75分

Part V	短文穴埋め問題・40問	1問平均20秒(全体で13分)	★
Part VI	長文穴埋め問題・12問	1文書2分以内(全体で7分)	★★
Part VII	読解問題・48問	各設問1分~1分半(全体で55分)	★★★

※参考資料：「新TOEICテスト 直前の技術」(アルク刊)

英語テストの違いを知っておこう

大学生になると、客観的な英語力を測るためのテストとしてTOEIC、TOEFLを受ける機会も増えてくるけれど、名前は似ていてもテストの目的や形式はそれぞれ異なっている。TOEICにはリスニング・リーディング形式のTOEICテストとスピーキング・ライティングの力を測るTOEIC SWテストがある。TOEFLにも、学内一斉テストとして実施されるペーパー試験のTOEFL ITPと、北米への留学に必要なオンライン試験のTOEFL iBTでは形式が大きく変わる。

自分が何のために、どのテストをいつ受けなければならないのかをきちんと調べたうえで、それぞれのテストに合った対策をするようにしよう。

TOEIC®/TOEFL®-ITP/TOEFL®-iBT 徹底比較

～ それぞれのテストの違いをきちんと知っておこう ～

	TOEIC®テスト http://www.toeic.or.jp/	TOEIC®SWテスト http://www.toeic.or.jp/	TOEFL®テストITP http://www.cieej.or.jp/toefl/	TOEFL®テスト(TOEFL-iBT) http://www.cieej.or.jp/toefl/
受験が必要な人	大学3年生・社会人	大学3年生・社会人	学内で受験が必須となっている人	主にアメリカ・カナダへの留学を希望する人
スコアを必要とする時	進級／卒業要件 就職活動	就職活動	学内クラス分け・学期末成績評価／交換留学選抜	留学出願前
スコアを評価する人	企業	企業	国内の大学	アメリカ・カナダの学校
受験時期と場所	SP(公開テスト):年8回、全国の公開会場 IP(学内テスト):時期は大学により異なる。 会場は学内	公開テスト: 年24回(全国の公開会場)	大学指定の一斉テストとして 学内で受験	任意の時期に全国の テストセンターでPC受験
測る目的とスキル	客観的コミュニケーション力 Listening/Reading	効果的なコミュニケーション力 Speaking/Writing	学内英語評価、学内選抜 Listening/Reading	大学の授業についていけるかどうか Listening/Reading/Speaking/Writing
ボリューム	120分 (L:45分/R:75分)	80分 (S:20分/W:60分)	115分 (L:35分/R:80分(25分+55分))	270分 (L:60-90分/R:60-100分/S:20分/W:60分)
推奨スコア	600点～	S,Lとも130点～	500点～	60点～
受験で 負荷のかかるポイント	スピード(時間不足)・ 長文ボリューム	発信系タスク	学術的・専門語彙、 長文ボリューム	発信系タスク (Speaking・Writing)
差がつくポイント	受験力・スピード・速読力	アウトプット力、PCスキル、 即時対応力	語彙力・速読力	アウトプット力・PCスキル・ 即時対応力
教材選びのポイント	試験日までの残り期間を考える スコアレポートで苦手分野を 把握してからスキル別対策	—	「TOEFL-ITP」の表記があるもの ポキャブラリー増強・ 長文速読力強化	「TOEFL-iBT」の表記があるもの アウトプット練習用と インプット強化用を区別

※おことわり この表はあくまでそれぞれのテストの一般的な活用法や目的、テストの形式、おおまかな傾向などを受験予定者にとって比較しやすいよう簡単にまとめたものです。試験の導入形態などによって条件は変わります。推奨スコア、教材のポイントなどについてもあくまで一つの目安として参考してください。

お申込は大学生協店舗まで

カレッジTOEICは、大学内で実施するTOEIC-IPテスト(TOEIC団体特別受験制度、IP=Institutional Program)です。大学生協が運営し、組合員を対象に各大学で実施します。公式認定証の代わりにスコアレポート(公開テストとスコアの有効性は同等)をお渡しします。

※詳細は各大学生協にお問い合わせ下さい。
※実施していない大学生協もあります。
受験料は4,040円(消費税込)です。

英語学習のみちしるべ

大学生協では英語学習のヒントを満載した情報誌を発行しています。
生協のお店で無料で入手できます。
どうぞ活用ください。

